

## 会員数

R2. 9.1現在

男 457

女 160

合計 617

# 会報 シルバー あきる野

総会号

発行

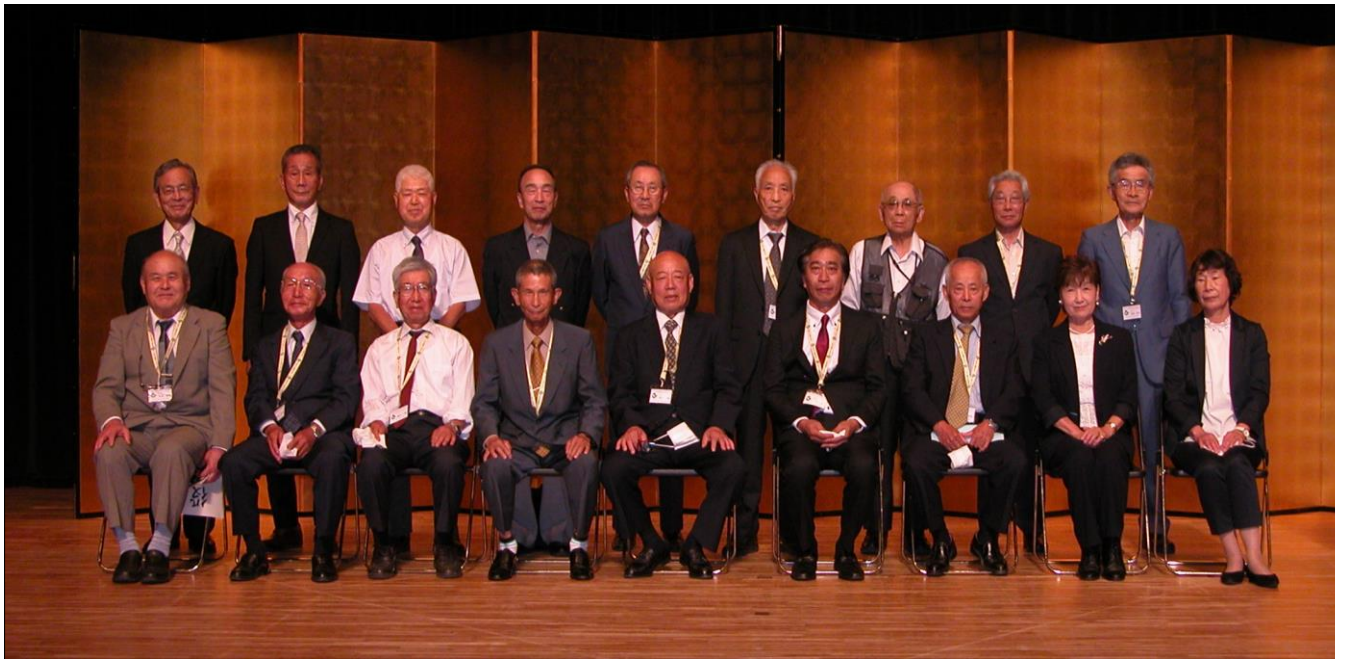
令和2年9月

発行者 公益社団法人あきる野市シルバー人材センター

所在地 あきる野市平沢32番地1

電話 558-1414 FAX 558-5029 <http://www.akiruno-sc.or.jp/>

検索:あきる野市シルバー人材センタ



令和2年度 新役員の皆さん (楠本理事・あきる野市健康福祉部長は欠席)

## 令和2年度定時総会を開催

### ―秋川キララホールにて―

6月12日(金) 午後1時から、秋川キララホールに於いて定時総会が高橋理事の司会で進められました。

例年とは異なり、新型コロナウイルス感染防止のため、表彰式はとりやめ、来賓の方の隣席はご遠慮いただき、短時間で行われました。

資格審査では会員総数613名、出席者数24名  
委任状提出者数522名、議決権利行使書提出者数  
8名の報告があり、定款18条により総会の成立が  
宣言されました。引き続き、小山副会長が議長に選  
出され議事進行を行いました。

第1号報告 監事報告

第2号報告 令和元年度事業報告

第1号議案 令和元年度決算の承認について

第2号議案 理事の選任について

第3号議案 監事の選任について

監事報告は赤津監事、事業報告は平野常務理事により提案説明がありました。議案については、平野常務理事により提案説明があり、いずれも原案通り承認されました。

## 新役員、委員会決まる

### 早速、活動スタート



会長挨拶

加藤 陽一

定時総会はコロナの拡大で、社会が混乱と不安の中、六月十二日(金)会員の殆どが委任状。来賓の臨席もご遠慮願ひ、表彰式も行なわれない異例のものとなりました。

その後の理事会で推薦、承認され会長となりました。加藤です。自信もなく、本意ではありませんが、「自分の顔は、自分で見られない。人から真剣に頼まれたら、やってみたら良い・・・」と言う、偉人の言葉を思い浮かべ、最後は自分で決断いたしました。

能力不足のところは、理事、会員、事務局の方々のお力を借り、一心を尽くしたいと思ひます。

本年はコロナ禍で、先も見えない情勢ではありますが、日本は国民一人ひとりの意識の高さで乗り越えようとしています。世界でも類を見ない、素晴らしい国民性のお陰です。

私達シルバー人材センターは「公益社団法人」の目的である、高齢者の生きがい就業の場作りを通し、地域社会に貢献する努力を忘れず、地域への恩返しと、会員増強を進めていく所存であります。そのためには、

#### ① 組織を挙げたコロナ対策

「かからない、うつさない」を合言葉に、会員一人一人が対策をお願いします。

#### ② 安全第一

会員の人命と健康です。事故0就業をお願いします。

#### ③ 自主自立共働共助

会員能力の一段アップをお願いします。

#### ④ 接遇力の向上

お客様目線の仕事を通し、市民への好感度をアップしてください。

#### ⑤ 女性委員会活動支援

センター内に新鮮な空気を入れ地域活動を通し、社会貢献を進めます。

理事、会員、事務局共に、この五つを念頭に活動し、充実した厚みのあるセンターにし、社会貢献度を向上させたいと思ひます。会員、市民の皆様、至らない点をご指摘いただき、良き点も教えていただき、今後とも我らがセンターを宜しくお願い申し上げます。

### 新理事・監事の紹介

会 長	加藤 陽一	代表理事 (第四地区)
副会長	高橋 和英	代表理事 (第三地区)
常務理事	平野 徹	業務執行理事
事務局長		
理 事	浅井 昭男	(第四地区)
	石崎 健	(第三地区)
	稲川 一雄	(第一地区)
	小川 君江	(第四地区)
	小川よしえ	(第四地区)
	川久保 明	(健康福祉部長)
	北岡 宏邦	(第一地区)
	楠本美須寿	(第一地区)
	小林 明彦	(第五地区)
	須崎 勇	(第六地区)
	高水 一重	(第六地区)
	田畑 久直	(第二地区)
	藤井 昭治	(第五地区)
	増子 純一	(第二地区)
	益田 幸亮	(第二地区)
監 事	赤津 幸司	(第四地区)
	金子 晃	(第一地区)



**就業開拓委員会**

委員長 高水 一重  
副委員長 北岡 宏邦  
委員 浅井 昭男  
稲川 一雄  
小林 明彦  
増子 純一

**事業委員会**

委員長 小林 明彦  
副委員長 稲川 一雄  
委員 小川 君江  
田畑 久直

**広報委員会**

委員長 浅井 昭男  
副委員長 高水 一重  
委員 石崎 健  
小川よしえ

**女性委員会**

委員長 小川よしえ  
副委員長 楠本美須寿  
副委員長 小川 君江  
委員 秋山眞生子  
佐藤 昭子  
志村 信子  
玉澤 静子  
藤田 恭子  
藤塚多美子  
船木ケイ子  
松田まみえ  
宮崎 節子  
渡部佐代子

**安全管理委員会**

委員長 増子 純一  
副委員長 北岡 宏邦  
委員 楠本美須寿  
須崎 勇  
藤井 昭治  
益田 幸亮  
鎌田 政一  
島崎 博  
鈴木 義雄  
中島 仁  
前島 功  
森田 吉男

**設立40周年記念行事  
運営委員会**

委員長 高水 一重  
副委員長 須崎 勇  
委員 高橋 和英  
北岡 宏邦  
小林 明彦  
市倉 雅彦  
北嶋 義夫  
島崎 清  
外山 治  
若林 健一  
平野 徹

**就業開拓委員会**

委員長 高水 一重

今年度の就業開拓委員会は、センター会員の就業の場を確保する等、新規事業の開拓を行ってまいります。

ただ今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の立場から就業先の訪問等が難しい状況にあります。従来行っていた就業先企業へ訪問しての、お礼を兼ねた営業活動等が難しいので、文書での営業を行う予定です。

**事業委員会**

委員長 小林 明彦

事業委員会は今年度、新体制となり、私は引き続き委員長を務めることになりました。新体制で今年度も研修事業に取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願いたします。

今年度も、研修事業を計画しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で各事業計画が延期及び中止となっております。また、会員親睦事業につきましても現状では難しい状況です。

未だに収束が見えませんが事業委員会では、試行錯誤して少し

でも計画に沿った事業が出来るよう努力していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、会員一人ひとりが三密・外出を控え感染しないような行動を心掛けましょう。

**広報委員会**

委員長 浅井 昭男

広報委員会は、令和二年度定時総会後、四名の委員にて新たに発足しました。総会号、一月号、五月号と年三回の会報発行を主な仕事としております。

今回は六月に行われた定時総会に関しての「総会号」となっております。次回は一月の発行を予定しております。

会報の発行は、シルバー人材センターの事業を会員のみなならず、市民の多くの方々にお知らせするとともに、事業の拡大にも大変重要な役割を負っています。

新型コロナウイルス感染症の影響で様々な問題がありますが、私達委員一同は会報の発行と会員増強の施策に取り組んでいきたいと思っております。会員皆様の絶大なご支援をお願い申し上げます。

## 女性委員会

委員長 小川よしえ

今年度新任5名と留任8名、合計13名で女性委員会をスタートすることが出来ました。

女性委員会の増強・活性化を目指し、明るく楽しい女性委員会になりますように邁進する所存です。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 安全管理委員会

委員長 増子 純一

安全管理委員会が、新メンバーでスタートし「271120安全宣言・安全はすべてに優先する」このスローガンを基に更に気を引き締め一人ひとりが事故を起こさないという誓いを新たに踏み出しました。

各自が、健康管理に気を付け、安全で充実した就業をお願いいたします。

コロナウイルス感染予防対策の実施、安全就業基準の遵守に

よる就業中及び、途上の事故を無くし、気を引き締め、家族のため、仲間のためそして自分のため安全に行動すれば「事故ゼロ」が達成できます。

安全管理については毎月の「安全便り」でお知らせ致しております。

## 設立40周年記念行事

### 運営委員会

委員長 高水 一重

あきる野市シルバー人材センター設立40周年を記念して、昨年当委員会が発足しました。記念誌の発行・会員相互の親睦を図るイベント・腕に自信のある会員さんの発表の場としての作品展を企画してまいりました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、3密になりやすいイベントと作品展は今年度見送りとし、来年以降に行うこととなりました。

今年度は記念誌の発行を行うことといたしました。つきまし

ては会員の皆様に記事の依頼や作業風景の写真撮影等ご協力ご面倒をかけるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。また、来年以降に延期した作品展については、会員皆様の作品を後日募集しますのです、その際はよろしくお願ひします。多くの作品を期待しております。



宮野弘司会員が丹精込めて作った花菖蒲がセンター入り口を飾っていました。

## 編集後記

次郎左

「奈良の大仏と感染症」と書くと腑に落ちないでしょうが、感染症の歴史は古く、天然痘も結核もペストもコロナと同じ感染症です。

感染症での最古の死者と確認されるのは三千年以上昔のエジプトのラムセス五世のミイラの顔面に天然痘の病変といわれる痕跡があるそうです。

日本では約1300年前の天平九年に北九州で発生した天然痘が当時の日本の人口の三分の一、百万人の命を奪いました。

これを悼み、神仏にすがる人々の為に時の帝、聖武天皇が発願して大仏を建立しました。繰り返す天然痘も初めて作られたワクチンに根絶された感染症です。感染症との戦いに終わりはなく、国同士が角突き合わせていけば、いつか感染症に足元を掬われる日が来ます。叡智を集めて次の感染症に備えることが出来るのも私たち人間です。